

『災害救助犬育成施設』が佐賀県大町町に完成!!

NPO法人日本レスキュー協会（本部・兵庫県伊丹市）が杵島郡大町町に建設していた災害救助犬やセラピー犬の育成・派遣施設「MORE WAN（モアワン）」が完成し、令和4年4月23日（土）に約100人が出席して落成式典が行われました。



吉永和正・日本レスキュー協会会長



水川一哉・大町町長

日本レスキュー協会の吉永和正理事長は「災害支援関係者が集う場所になる。『災害があれば大町』と、全国に発信できる日を楽しみにしたい」とあいさつ。

水川一哉大町町長は「2度の大きな水害を受け誘致を進めた。被災者が希望を持って前に進んでもらえる助けになりたいという町民の思いを込めた施設」と活動への支援を求められました。



山口祥義・佐賀県知事



藏内勇夫・日本獣医師会会長

当協議会の藏内勇夫会長（日本獣医師会会長）も来賓として出席されました。

藏内会長は、挨拶の中で「この災害拠点施設は素晴らしい。広々としていて、施設の空間、明るさ、木のぬくもり、まさしく動物を育成する施設としてふさわしいと思います。

この施設は、佐賀のみならず九州、西日本の拠点施設になるだろうと思っています。

九州では、災害が多発していますので、そのような時に、確実に、迅速に救助犬の派遣をしていただき、ケアをしていただくことは大変ありがたいことです。

人のため、動物のために役立つ施設となってほしいと願っています。」と述べられました。



日本レスキュー協会は、2019年（令和元年）の佐賀豪雨での支援活動がきっかけで、2020年（令和2年）10月24日に大町町と進出協定を締結していました。この施設は、西日本での災害発生時の対応拠点にもなる予定です。主な事業内容は、災害救助犬とセラピー犬の育成・派遣、訓練者養成、動物の保護・愛護活動などです。

記念式典の後には、災害救助犬・太陽のデモンストレーションも行われました。



日本獣医師会と日本レスキュー協会とは、これまで、災害に関することについては一緒に活動されています。今後は、ワンヘルスの推進についても、協力して活動されていくことが期待されています。

2022年4月24日

福岡ワンヘルス協議会・事務局